

## 6.5 教育の質の向上

### 進捗状況報告

2007年度に大学院全授業科目・全授業担当者対象に「授業に関する調査」を実施した。春学期は全授業についてまとめて回答する形式のアンケートであったため回収率が低かったが、秋学期は授業ごとのアンケートに改めることにより回収率が改善された。アンケート結果は専攻コンビーナー会で検討し、学生のコメントは授業担当教員に配布した。シラバスについては、2009年度以降web上で公開しどこからでも確認できるシステムにする予定である。

### 学内第三者評価

教員の教育・研究指導方法の改善については、検討段階または予定にとどまるものが多い。大学院設置基準の2007年度の改正内容に照らしても、現状の取り組みでは十分ではなく、見直しが具体化することが求められる。

授業評価について、2006年度に受けた認証評価の結果において、「FD活動の一環である各学部の授業評価アンケートは、2005（平成17）年度からは全学一斉に同一フォームで行っており、結果を公表している。しかし、その結果を授業改善にどのように反映させるのか具体的な方策が明確になっていない。また、各研究科では、これまでFD活動に組織的に取り組んできたとは言えない。しかし、2006年度（平成18年度）に「大学院ファカルティ・デベロップメント部会」が設置され全学的検討が開始されたところなので、今後の活動に期待される。」との助言を全学的に受けており、2010年度には改善報告書の提出が求められていることに注意されたい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
教員へのアンケートを実施したことはFD活動の一環として評価できる。大学院における授業評価アンケートは対象者が少数であり困難を生じやすいなか、秋学期からの工夫により回収率が向上した。